

## 名誉会員、内山充先生の御逝去について

令和元年6月16日に、本学会名誉会員の内山充先生が享年89歳でご逝去されました。

内山充先生は、昭和33年東京大学大学院化学系研究科薬学専門課程(博士課程)を修了後、昭和34年東北大学医学部助教授に採用され、昭和43年東北大学医学部教授に昇任(昭和47年東北大学薬学部教授に配置換)、衛生化学講座を担当されました。その後、昭和49年厚生省に入省、国立衛生試験所食品部長に就任、さらに昭和59年同所薬品部長、昭和62年に同所副所長、平成3年には国立衛生試験所所長に就任され、平成7年3月まで研究所の各部門を指導し、科学的な行政の推進に多大の貢献をされました。また、保健衛生功勞の分野で平成12年に勲二等瑞寶章を受賞されています。



内山先生は、「科学技術の所産を人間の生活に取り入れる際に最も望ましい形に調整するための科学」である「レギュラトリーサイエンス(RS)」の概念を日本でいち早く提唱され、この概念は、日本政府の第4期科学技術基本計画に取り込まれ、健康・医療戦略推進法においても、RS推進の重要性が謳われています。

本学会は、平成6年に設立されましたが、設立の背景には、内山先生の提唱されたRSにおけるデータ公表の重要性があります。即ち、本学会誌発行以前は、食品分野で安全を示す調査データがあったとしても、多くの雑誌で新規性がないとして掲載されにくいという状況がありましたが、このようなデータも、しっかり第三者が査読し論文として公表できることが重要ということで、本学会が設立され、本誌が発刊されたと聞いています。

本学会では、当時、財団法人日本薬剤師研修センター理事長、財団法人日本公定書協会会長でいらした内山先生に第6回学術大会(東京、平成12年)の学会長(大会長)をお引き受け頂き、大会長は理事併任ということで、同年度だけ理事にご就任頂いています。

先生は、筆者が国立衛生試験所に入所、食品添加物部に配属された時の薬品部長でしたが、直ぐに副所長に就任され、高い立場からRSの重要性を教えてくださいました。トリプトファン事件では、その解決の先頭に立たれましたが、不純物の同定で先生と共著の論文が出せたことは、筆者にとって誇らしい思い出です。内山先生は、一言で言えば「Gentleman」でした。

内山先生のRSに対する貢献、さらにRS研究を通じての国民の健康福祉に関する貢献は誠に顕著なものであり、本学会での功績も含め、先生の多大なご功績に深く感謝申し上げますと共に、あらためて、ここにご冥福をお祈り申し上げます。

(合田幸広 記)